



詩篇第一巻  
詩篇12-31篇

2012.6.5

イザヤ 6:2. セラフィム6つの翼、詩12~31の6組は6つの翼?

6:3 聖なる。万軍の主の栄光 24:, 29: 6:4 入り口の天使 24:  
 6:5-7. くちびる。口。汚れる。罪。 12:, 15:, 17: イザヤ 1:2.  
 6:8 主の声。 18:, 19:, 29: 天よ聞け。地よ..  
 6:11 主よ。いつまでですか。 13: 申32: 主は岩..  
 2:2,3 主の家。山にのぼる。 15:, 16:, 23:, 24:, 27: このさばきい-5:  
 2:3 主の道。小道。 25: 27: 王座につくイザヤ6:

イザヤの6章2節にセラフィムが出てきますけど、この御使いは6つの翼があります。この6つの翼は、2つで顔を覆って、2つは足を覆って、2つで飛んでいるものかな。その6つの翼、6つあるねと言って、詩篇の12から31までは、2つの集は3つずつに分けられて、6組ありますから、もしかしたら6つの翼みたいな構造かなと、真ん中の部分が交換されたりして、6つで1つの教えをしているのかなというこじつけを考えました。

こじつけはこじつけなんですけど、6章を見ると(イザヤの1章から6章の特に6章のところを見ると)12篇から31篇までの中に出てくるものが見受けられると。

「聖なる聖なる聖なる万軍の主の栄光について叫ぶ者」は6章3節にありますけれど、そのセラフィムの叫びというのは、「主の声」として24篇、29篇を見なくてはいけませんよね。5節と7節にくちびると口が汚れている、罪に汚れているその罪を清められるという話がありますよね。そのことは、12篇、15篇、17篇にある「口、くちびる」の話思い出してしまいます。

主の声という言い方はイザヤ6-8にありますけれど、「主の声」というのは、18篇、19篇、29篇。「主よいつまでですか」という言い方は6章11節に出てきますけれど、13篇は「主よいつまでですか」で始まります。

2章2節と3節のところ、「主の家。山に登る」「主の道を歩み主の小道を歩む」という話が出てきます。15篇、16篇、23篇、24篇、27篇が「主の山に登る」。「主の道、主の小道」は25篇、27篇に出てきます。

イザヤの1章の出だしのところ、2節で、「天よ聞け、地よ耳を傾けよ」という言い方がありますけれど、それは、申命記32章の出だしと同じですね。主は岩であるという18篇の大きなテーマですね。主は岩、その元になっている申命記32章の言い方でイザヤが始まっています。その裁き、申命記32章に書いてあるさばきが下されているということが、1章から5章の中で書かれていることでわかると思います。そのリンクもあります。

そのさばきを成す王様が王座についたというところが6章ですので、この6章のところに詩篇12篇から17、18、19から31の中にその並行となる言い方などが出てくるのもつともであるということで、セラフィムの6つの翼というのをこじつけて考えても思い出すにはちょうどいいかなと思いました。